

2019 年度 小委員会活動成果報告

(2020 年 1 月 9 日作成)

小委員会名	地方都市拠点デザイン小委員会	主 査 名：樋口 秀 就任年月：2019 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画委員会	委員長名：小浦 久子
設 置 期 間	2019 年 4 月 ～ 2023 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	本委員会では、人口減少が進み、その存続すらも問題となっている多様な地方都市を対象に、将来に向けた持続的発展を担う「拠点（広域拠点、地域拠点、生活拠点他）形成」のためのデザイン手法（拠点像とその実現プロセス）を研究し、その成果を公表するとともに地方自治体に提示することを目的とする。 これまでの都市計画制度は人口増加を前提としたものであり、今後も継続する人口減少下における拠点のデザイン手法は未だ確立されていない。各拠点は、その位置づけにより、目指すべき目標像も異なるため、多様な地方都市を対象に研究を進め、その在り方を探る。 2019 年度：①研究会（金沢市，都城市） ②学会大会オーガナイズドセッション開催（金沢工業大学） 2020 年度：①研究会（柏崎市・上越市，土浦市（予定）） ②学会大会オーガナイズドセッション開催（千葉大学） 2021 年度：①研究会 ②学会大会オーガナイズドセッション開催（未定） 2022 年度：①研究会 ②研究成果をもとに学会にてパネルディスカッション開催，出版	
委員構成 (委員名（所属）)	委員公募の有無：有	
	主査：樋口 秀（新潟工科大学） 幹事：松浦健治郎（千葉大学），長 聡子（西日本工業大学），石村 壽浩（ランドブレイン（株）） 委員：小林 剛士（山口大学），内田奈芳美（埼玉大学），浅野純一郎（豊橋技術科学大学大学院），内田 晃（北九州市立大学），小野寺一成（三重短期大学），小川宏樹（徳島大学大学院），倉知徹（新潟工科大学），小椋弘佳（米子工業高等専門学校），尹 莊植（横浜国立大学大学院），菅野圭祐（金沢工業大学）	
設置 WG (WG 名：目的)		
2019 年度予算	220,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://www.urban.kde.yamaguchi-u.ac.jp/UrbanRegeneration/index.htm

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回（年度内計画を含む）
刊行物	
講習会	
催し物	
大会研究集会	1. 日本建築学会大会オーガナイズドセッション開催 テーマ「コンパクトな市街地形成・拠点のデザインと縮小型都市計画のための制度・技術」（都市構造再編小委員会との共同開催）発表題数 9 題（地方都市拠点デザイン：3 テーマ，コンパクトシティ(1)(2)・都市再生），参加者数 60 名，2019 年 9 月 3 日実施
対外的意見表明・パブリックコメント等	

目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 研究および研究会開催（年2回） ①石川県金沢市（北陸地域・中枢都市・人口 50 万人）では行政担当職員（木谷弘司都市局長）から拠点形成の考え方、整備手法、整備実績について説明を受け、今後の方針、課題等について議論した。その後委員会メンバーで現地視察を実施した（参加者 12 名）。2019 年 9 月 2 日実施 ②宮崎県都城市（九州地方・地域中心都市・12 万人）では池田宜永市長にヒアリング調査を実施し、閉鎖した大規模店のリノベによる市立図書館整備の経緯、関連した周辺施設整備による中心拠点形成についてのトップとしての考え方、整備後の市民の反応等について直接話を伺った。また施設管理担当者による現地視察を実施した（参加者 7 名）。2019 年 12 月 6 日実施 2. 学会大会オーガナイズドセッション開催 本小委員会担当分としては3セッション9題の発表を取りまとめるとともに、会場にて発表者、参加者と地方都市の拠点デザインのあり方を議論した。2019 年 9 月 3 日実施 3. 委員会開催 建築会館にて小委員会を開催し、各委員の研究成果を発表するとともに今後の拠点形成のあり方を議論した。2019 年 7 月 6 日実施 第 2 回は 2020 年 3 月 14 日を予定 以上の通り、当初の活動計画は達成できたと考える。
委員会活動の問題点・課題	ほとんどが地方都市の大学を拠点として研究活動を実施している委員で構成された小委員会であるため、委員会の数による均等配分の予算（旅費）では、活動回数に制限がある。